

## はじめに



東日本大震災は、地震とその後の大津波により死者・行方不明者 19,000 人以上、建物被害 100 万戸以上の未曾有の大災害となりました。

犠牲者のご冥福をお祈りするとともに、今なお身元不明の方が一日も早くご家族の元に戻られますことを切に願っています。

また、最愛の家族や幸せな生活を失い、住み慣れた我が家や故郷を離れての生活を余儀なくされながら、信頼と絆のもと規律ある生活を送られている被災者の皆さまに、謹んで敬意を表します。

北九州市では、震災直後より官民が一体となって、義援金の募金、救援物資の提供、市民ボランティアの活動など様々な支援に取り組んできました。

また、消防士、医師、保健師など 500 人を超える市職員が被災地で様々な支援活動を行いました。

さらには、被災地から避難される方々への支援として、官民協働の「絆プロジェクト北九州」により、200 人以上の方々を本市に迎え入れてきました。

一方、市では、今回の震災を教訓に、「想定を前提とした防災体制」の考え方を見直し、「想定外でも命を守る防災体制」を目指して、「北九州市地域防災計画」の修正に取り組んでいるところです。

この報告書は、発災から 1 年間における、行政の取り組みを中心とした支援活動を一冊にまとめたものです。被災地で活動した市職員のレポートを数多く収録するなど、今回の経験を記録として正確に残すことを主眼に作成しました。

本報告書に掲載する教訓や経験を、今後の防災対策の充実に活かしていきたいと考えています。

私たち日本国民は、この災禍を決して他人事とせず、東日本の苦悩や願いを心に刻みながら行動しなければなりません。我が国は、これまでも幾多の災難や困難を経験しましたが、その都度、毅然とこれに立ち向かい、克服してきました。

復興に向けては長くて険しい道のりですが、戦後最大の国難であるこの震災も、私たちの力を結集することで、必ずや克服できると信じています。

被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

北九州市長 北橋 健治